

# 北九州市立病院機構における 新型コロナウイルス抗体保有状況

## 【目的】

北九州市立病院機構での**COVID-19**専用病棟において、**COVID-19**医療に従事する医療従事者の**SARS-CoV-2**の抗体の発現状況を横断的に調査し、感染予防策の見直しの必要性を検討することを目的とした。

※**COVID-19**：新型コロナウイルス感染症

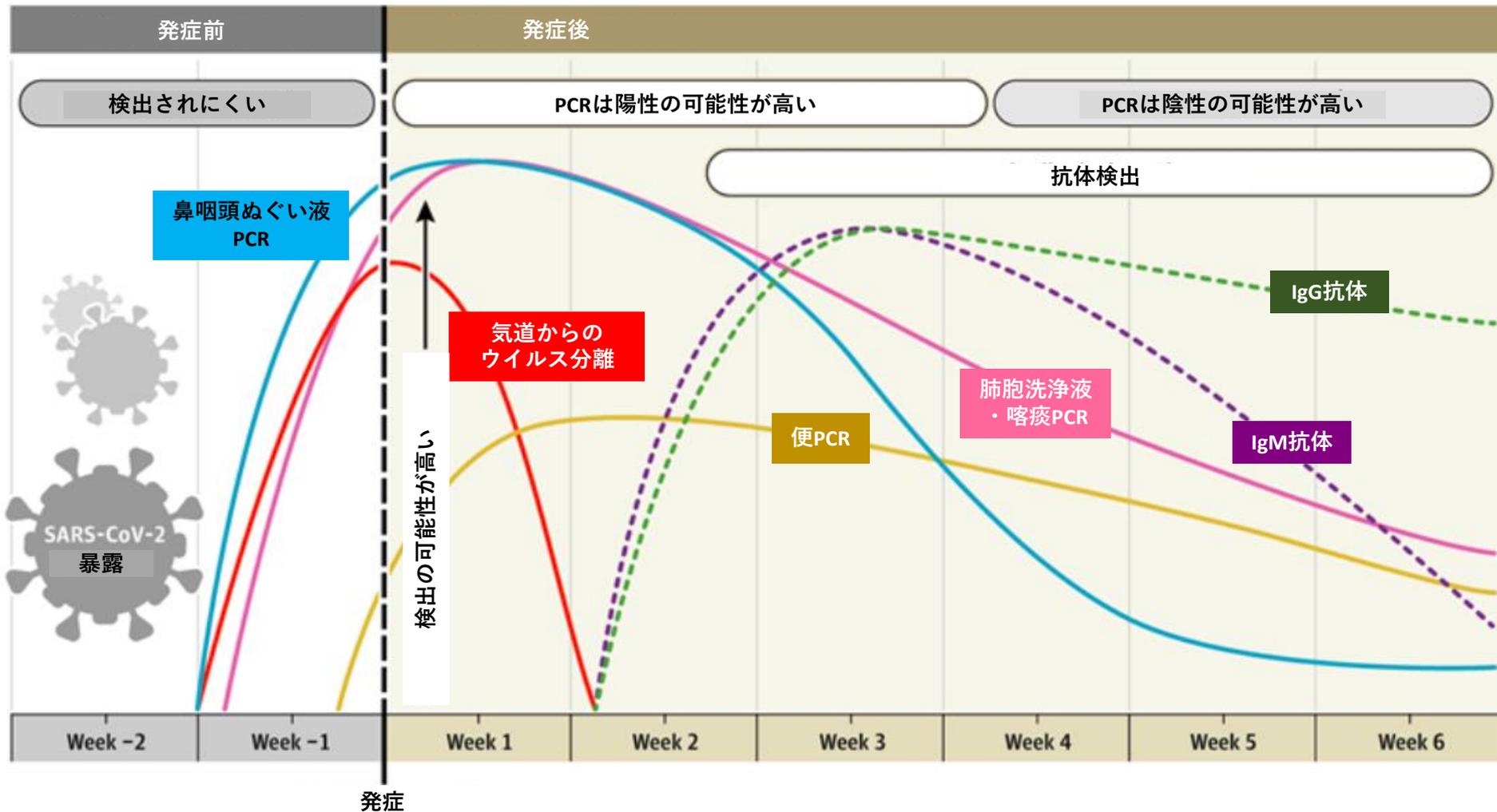
**SARS-CoV-2**：新型コロナウイルス

# COVID-19の抗体とPCR検査の違い

- PCRはウイルスそのものを調べる遺伝子検査であり、確定診断に用いられる。
- 抗体検査はヒトの免疫反応をみている検査であり、過去の感染を調べるための検査に用いられる。

# 発症前後のウイルス検査の検出状況

## ウイルス分離・PCR・抗体



## 【対象施設】

北九州市立病院機構本部	：	31名
北九州市立医療センター	：	445名
北九州市立八幡病院	：	115名

## 【対象者】

発熱者およびCOVID-19既往者は除外

COVID-19病棟で従事する医療従事者	：	90名
一般病棟で診療に従事する医療従事者	：	402名
医療に従事しない事務系職員	：	99名

## 【調査期間】

2020年7月1日から10月16日

# 検査結果

	総数	IgG陽性	%
COVID-19病棟の医療従事者	90	1	1.1%
一般病棟の医療従事者	402	0	0.0%
医療に従事しない事務職員	99	1	1.0%
全体	591	2	0.3%

※米国アルファサイエンティフィック社の抗体検査キット（米国食品医薬局緊急使用許可取得）を使用。

※抗体陽性者はすべてCOVID-19 PCR陰性。

# まとめ

- COVID-19専用病棟で勤務する医療従事者90名、一般病棟で勤務する医療従事者402名、事務系職員99名、計591名がこの研究に参加した。
- IgG抗体陽性者は、2名/591名（0.3%）であった。内訳は、COVID-19病棟で従事する医療者1名、事務系職員1名であった。
- 感染予防策が十分に機能していると考えられた。